

低リスクの若者に対する警察主導のダイバージョンは 若者が司法制度と将来的に関わることを減らす



軽微な非行行動は、とりわけ少年にとって、規範的である

このレビューの目的は何か？

このキャンベル系統的レビューでは従来のシステム処理と比較して、警察主導のダイバージョンが非行行為に及ぼす影響を調査した。このレビューは13のランダム化比較試験および6件の擬似実験的研究を含む19件の高度な研究よりもたらされたエビデンスを要約している。

司法制度と関わってしまう低リスクの若者を警察主導でダイバージョンすることは、従来の手続きと比較して、司法制度に若者が将来的に関わることを減らすことについてより効果的である。

このレビューは何についてのものか？

若者の非行と不品行は思春期においては普通のことであり、そのうえ、不品行は、破壊的または問題のある状態から非行状態へといつしか一線を越える。アメリカにおける若者についての全国的に代表的な調査は、とりわけ少年にとって、軽微な非行行動が規範的であることを示している。軽微な非行行動の規範的な性質は、警察がどのように軽微な非行行動に是正的な方法で対応すべきかという問題を提起するだけでなく、将来の不正行為を減らすのに効果的であることを超えて若者を刑事司法制度に巻き込むことを避ける。

警察ダイバージョンのスキームは、警察が若者の裁判処理の代わりに適用することができる戦略を集めたものである。選択肢としてのダイバージョンは、軽微な悪行に携わっている若者を無視することと、そういう少年達に対して犯罪として公式に起訴することの間の選択肢を提供するので、法執行官達には人気がある。警察主導のダイバージョンには、刑事司法制度に関わることによる潜在的に有害な効果に低リスクの若者をさらすことを制限することによって、再犯を減らす可能性がある。

このレビューでは、青少年に対する警察主導のダイバージョンと従来の処理が、公式非行率に異なる影響を与えるかどうかを検討した。

このレビューの主な知見は何か？

本レビューでは、18歳未満の若者に対して警察主導のダイバージョン実践がもつ効果を従来の処理と比べて評価した。

我々は19の評価を代表して合計で14の原稿を特定した。これらの19のうち13がランダムにコントロールされたデザイン(条件をランダムに割り当てたもの)で、および6つが擬似実験的なデザイン(条件をランダムに割り当ててない)を使用している。これらのデザインの多くが共通する対照群(従来の処理)と比較した2つ以上のダイバージョン条件を含んでおり、分析のために31件の処置対照比較が生み出された。



Photo: By Chris Yarzab (CC BY-SA 2.0)

このレビューはどれぐらい最新のものか？

適格な研究についての、われわれの探索は2017年1月に完了したため、その時点までに特定可能な研究のみが含まれている。このキャンベル系統的レビューは2018年5月に公開された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画は、系統的レビューを公開している、国際的・自主的・非営利の研究ネットワークである。我々は、社会および行動科学のプログラムに関するエビデンスの質を評価し、まとめている。我々の目的は、人々がより良い選択そして政策決定ができるように手助けをすることである。

この要約について

この要約は、キャンベル系統的レビュー David.B. Wilson, Iain Brennan, and Ajima Olaghere 著 "Police-Initiated Diversion for Youth to Prevent Future Delinquent Behavior: A Systematic Review" (DOI10.4073/csr.2018:5)に基づいて作成された。Tanya Kristiansen (Campbell Collaboration) が要約を再デザインおよび編集をおこなった。この要約を作成するためのAmerican Institutes for Researchからの財政支援に感謝の意を表します。



AMERICAN INSTITUTES FOR RESEARCH™

これらの研究は、1973年から2011年の間に全て実施された。ほとんどがアメリカ(11)で実施され、残りはカナダ(4)、オーストラリア(2)、そしてイギリス(2)で実施された。

エビデンスの一般的なパターンは肯定的であり、警察主導のダイバージョンが、従来の処理と比較して、低リスクの若者による将来の非行行動を減らすことを示唆している。従来の処理条件で50%の再犯率と想定すると、ダイバージョンされた若者は約44%の再犯率となることが示唆される。このようなダイバージョンの全体的利点は、明らかなバイアスリスクがないと判断されるランダム割り当て研究でも同じである。ダイバージョンプログラムの類型間において有意な違いは見つからなかった。さらに、これらの調査結果が出版セクションバイアスの影響をうけることを示唆するエビデンスはなかった。

このレビューの結果が意味するものは何か？

この系統的レビューの結果は、少年司法制度への事前の関与が限定的もしくは全くない低リスクの若者に対する警察主導のダイバージョンの利用を支持する。それゆえに、警察と政策立案者は、少年犯罪に対処する為の解決策の組み合わせの一部としてダイバージョンプログラムを検討する必要がある。

レビューに含まれている研究の多くは、1970年代および1980年代に実施された。調査結果が現代の少年司法の文脈においても依然として当てはまることを保証するためにも、より新しく質の高い研究が必要である。同じ理由で、アメリカ以外でも追加の調査が必要である。

最後に、我々は低リスクの成人の犯罪者に対するダイバージョンの有用性を調査することを推奨する。